

食卓の周辺

西原校区の中学校や小学校の卒業式が続いて、新しい旅立ちの3月になりました。それぞれ進級して、これからの人生を精一杯楽しんでほしいと願っています。若いということは素晴らしいことです。大いに新しいことに挑戦してほしいと願っています。

50歳を迎える前に、若くして突然亡くなった二男が成人を迎えた時、記念に植えた杏が今年も満開を迎えました。昨年は、なぜか、全然花が咲きませんでした。

わが家の庭は、全然手入れの届いていないのですが、あちこちハルニラの紫の可憐な花が今満開です。白たんぼの花も、太陽の恵みを受けると花開き、曇りや雨の日は、閉じたままです。

このたんぼは、以前、山登りした時、道端に咲いていた一株を持ち帰って植えたのですが、今では、庭のあちこちに種が飛び、広がっています。

前庭に聳えているモチノキは、亡き夫が春の植木市で買ったもので、すでに50年になります。

風に吹かれ、葉っぱが流れるように散るのをリビングのガラス窓越しにながめていましたが、とても美しい情景に、幸せな気分には浸っていませんでした。

*

3月3日、河上洋子先生がお亡くなりになりました。河上先生には大変お世話になりました。若くして結婚して、世間知らずだった私に、先生は、色々な社会体験の機会を与えてくださいました。

私が河上先生に初めてお会いしたのは、50年程前。当時、先生はNHK熊本放送局にお勤めで、社会教育の場で、八面六臂のご活躍でした。

女は夜、外に出るものではないと育てられた私を、夜の街に誘い出し、先生にお酒の飲み方まで教わりました。

「長女の順子さんに頼まれて、弔辞も読ませていただきました。先生、ありがとうございました。とても寂しいです。」

*

3月8日は、今年度の活動の閉講講座で。後半は、古上さん手作りのお菓子をいただきながら語り合いました。

今年度も、各講座のスタッフの方々の行き届いたお世話で、充実した活動ができました。

新年度は、スタッフの意見で、外部からの講師はお招きしないで、会員が各講座のリポーターを務めて、内容の充実を図ることにしました。

小さいお子様がいらっしやる若いお母さん方は、どうぞお子様と一緒に講座にご参加ください。そして、子ども本のお会いにしてくださいればと願っています。

おります。

*

3月15日、「くまもとおはなしの交流会」の引き継ぎを事務局の我が家で行いました。昨年の開催地・宇土市から村田さんと上村さんが、今年開催地の荒尾市からは、森川さんがご出席。2017年度は、荒尾市で、「第26回くまもとおはなしの交流会」を11月3日(祝)に開催します。ぜひ、みなさん、ご予定に入れておいてください。

この日のお昼は、宇土の村田さんが玄米のお赤飯をたくさん持参してくださいましたので、みんなで美味しくいただきました。「沢山いただいたので森川さんにもお土産にさしあげました。」

宇土市から荒尾市へ。毎年その地域の方々がお世話くださって、おはなしの活動が広がっているのを嬉しく思います。これからも若い方々の力で続いていきますことを願っております。

*

3月17日夕方、長男が東京から帰宅。19日朝早く帰京しました。

19日は、10時から、九州沖縄交流会世話人会。喜界島からも米田さんが出席してくださいました。今年(第31回)・来年は熊本で開催。本田ひろみさんが実行委員長でお世話くださることになりました。タイトルは、「2017年度九州

沖縄おはなしの交流会 熊本大会」森川さんに森川さんに森川さんに

熊本会場のタイトルは、「おはなし」から「子どもの本」へ

今回の世話人会では、今後の九州沖縄交流会について話し合いました。参加した九州沖縄の世話人の皆さんは、これからもとても楽しみに、九州沖縄各地を回って開催することを望んでおられました。昔話を楽しむ交流会は、30回で終わりましたが、新しいテーマでこれからも九州沖縄各地を回って開催することになりました。世話人は、各県みんな高齢化しているのに、続けようという意欲が、とても嬉しく有難く思いました。

*

このところ、毎月、長男と娘が帰熊してくれ、毎日、息子と娘が電話をかけてくれます。息子は朝、会社の始業前に、娘は夜。夜掛けられない時は昼間。有難く思っています。

3月25日娘が帰熊。31日が夫の命日ですので、26日には、お経をあげていただくことにしました。(横田幸子)

編集 田原三容子・安田晶子・横田

特定非営利活動法人

熊本子ども本の研究会 発行

〒861-8029

熊本市東区 西原一丁目一五の二四
T/F 096-382-5090